

平成 29 年度全国学力・学習状況調査 伊予市調査結果概要

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の概要

- (1) 調査実施日 平成 29 年 4 月 18 日 (火)
- (2) 調査実施校及び調査学年・児童生徒数
小学校 9 校 (第 6 学年 289 名) 中学校 4 校 (第 3 学年 345 名)
- (3) 調査の内容
 - ① 教科に関する調査 (国語、算数・数学)
 - ア 主として「知識」に関する問題
 - イ 主として「活用」に関する問題
 - ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

3 教科に関する調査結果の概要

<小学校調査>

区分	国 語		算 数	
	知識 (%)	活用 (%)	知識 (%)	活用 (%)
伊予市	77	57	81	51
愛媛県	77	59	82	50
全 国	75	58	79	46

<中学校調査>

区分	国 語		数 学	
	知識 (%)	活用 (%)	知識 (%)	活用 (%)
伊予市	79	74	66	54
愛媛県	79	74	67	51
全 国	77	72	65	48

○ 小学校では、国語科の主として「活用」に関する問題がわずかに全国平均正答率を下回っているが、概ね全国平均正答率を上回っており、教科に関する調査結果は良好である。特に算数科の主として「活用」に関する問題は、全国平均正答率を大きく上回っている。今後も各教科とも、基礎的・基本的な内容の定着、表現力の育成、言語活動の充実などがさらに図られるようにすることが大切である。

○ 特に良好な内容

<国語科>

- ・ 目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫して文章に書くなど「書く」内容
- ・ 国語科への関心・意欲・態度

<算数科>

- ・ 示された数の意味を正しく理解し、求め方を正しく記述できるなどの「数量関係の学習」における「問題解決の考え方」
- ・ 計算や作図などに関わる「技能」

○ 中学校では、国語・数学ともに全ての調査・項目において全国平均正答率を上回っており、教科に関する調査結果は良好である。特に数学科の主として「活用」に関する問題は、全国平均正答率を大きく上回っている。今後も各教科とも、基礎的・基本的な内容の定着、表現力の育成、言語活動の充実などがさらに図られるようにすることが大切である。

○ 特に良好な内容

<国語科>

- ・ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うなどの「言語についての知識・理解・技能」
- ・ 国語科への関心・意欲・態度

<数学科>

- ・ 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明するなどの「統計等の学習」における「問題解決の考え方」

【平均無解答率（答を書かなかった児童生徒の割合）】

本市の平均無解答率が全国の平均無解答率を下回った割合（低い方がよい）（+は良好）

<小学校調査>

国 語		算 数	
知識 (%)	活用 (%)	知識 (%)	活用 (%)
+ 2	+ 2	+ 1	+ 3

< 中学校調査 >

国 語		数 学	
知識 (%)	活用 (%)	知識 (%)	活用 (%)
+1	+1	+2	+5

- 本市の平均無解答率を全国と比べると、昨年度までと同じように小学校・中学校ともに良好な傾向である。問題に粘り強く取り組もうとする態度が見られる。

4 質問紙調査結果の概要

< 小学校 >

- 「平日の読書時間」「学校のきまりを守る」「将来の夢や目標がある」などの項目において全国と比べて良好な結果である。
- 「地域・社会の問題等への関心」「朝食を毎日食べる」などの項目において、全国と比べて低い傾向がある。

< 中学校 >

- 肯定的な回答が多く、特に「地域・社会の問題等への関心」「平日の読書時間」「将来の夢や目標がある」などの項目において、全国と比べて良好な結果である。
- 「朝食を毎日食べる」の項目において、全国と比べてやや低い傾向がある。

< 自己肯定感について >

自分にはよいところがあると思っている児童生徒

	伊予市 (%)	愛媛県 (%)	全国 (%)
小学校	80	80	78
中学校	72	74	71

< 将来の夢や目標について >

将来の夢や目標をもっている児童生徒

	伊予市 (%)	愛媛県 (%)	全国 (%)
小学校	88	88	86
中学校	76	75	71

< 家庭学習について >

家で学校の宿題をしている児童生徒

	伊予市 (%)	愛媛県 (%)	全国 (%)
小学校	98	97	97
中学校	93	94	90

< 授業について >

話し合う活動で考えを深めたり、広げたりできていると感じている児童生徒

	伊予市 (%)	愛媛県 (%)	全国 (%)
小学校	73	70	68
中学校	68	67	65

その他、全国や愛媛県と比較し、良好な傾向のある項目や課題が見られる項目は以下のとおりである。

○ 全国や愛媛県と比較し、良好な傾向のある項目

- ・ 友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である。(小学校)
- ・ 友達のを受け止めて、自分の考えをもつことができる。(小学校・中学校)
- ・ 家の人と学校での出来事についてよく話をする。(小学校・中学校)
- ・ 家の人と将来のことについてよく話をする。(中学校)
- ・ 家からは、授業参観や運動会などの学校の行事によく来る。(小学校・中学校)
- ・ 家で、自分で計画を立てて勉強をしている。(小学校)
- ・ 家で、学校の授業の復習をしている。(小学校)
- ・ 話し合い活動で、少数意見を大切にしながら意見をまとめている。(中学校)
- ・ みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。(中学校)
- ・ 今住んでいる地域の行事に参加している。(小学校・中学校)
- ・ 地域社会などでのボランティア活動に参加したことがある。(小学校・中学校)
- ・ テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。(中学校)
- ・ 外国の人や外国に関心がある。(小学校・中学校)
- ・ 人が困っているときは、進んで助けている。(中学校)

○ 全国や愛媛県と比較し、課題が見られる項目

- ・ 就寝時間が規則正しい。(中学校)
- ・ 友達の話や意見を最後まで聞くことができる。(中学校)
- ・ 普段(月～金曜日)の勉強時間が多い。(中学校)
- ・ 新聞を読んでいる。(小学校)

5 今後の取組について

この調査結果は、児童生徒の学力の一部であり、全ての学力を調査しているものではありません。各学校から、学校の結果や今後の取組などが示されていることと思いますが、学校と家庭の連携の下、学習状況の改善を図っていくことが大切であると考えます。

また、伊予市では平成25年度から「伊予市立学校の教育力向上推進委員会」を設置し、伊予市児童生徒の学習状況に関する課題や今後の取組について協議しています。ここでは、基礎・基本の定着、小中学校(小学校同士、中学校同士、中学校区の小中学校)での連携、学習指導の充実、学力調査の実施、家庭との連携の強化などが取組の課題としてあげられています。今後も、市と学校と協力して学力向上の推進に努めてまいりたいと思います。

6 備考

愛媛県教育委員会のホームページにも県や市町の結果の概要が紹介されています。

(<http://ehime-c.esnet.ed.jp/gimu/src/02shidou/01gakuryoku/zenkoku/zenkoku29.html>)